

第38回 うつのみやこども賞だより

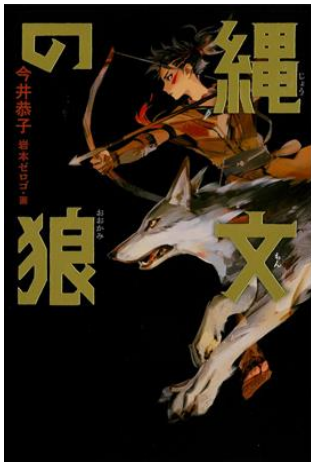
令和3年度 9回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『縄文の狼』 今井恭子／作（くもん出版）

『ボーダレス・ケアラー』
山本悦子／著（理論社）



～読んだ本の感想より～

- 縄文時代のことがよく分かった。狼の専門書みたいでかっこよかった。
- どうして狼と人とは住む世界がちがったのか、父さんたちがこえてはならぬ一線をあえてこえたのは、自分のせいだったことを調べるところがとても面白かった。
- 狼と人との関係がまざまざと想像でき、幸せそうだと感じました。オオアシとツナグのような優しい狼にふれてみたいです。
- 縄文時代の生活が生き生きとイメージできました！その時代も少しずつ変わっていて、おもしろかったです。
- キセキが海へながされてしまったとき、ツナグが死ぬかもしれないのに海へとびこんできたのがすごかった。

令和4年2月6日

読めば
愉快だ
宇都宮
UTSUNOMIYA

宇都宮市立図書館
UTSUNOMIYA CITY LIBRARY



- もう二度と会えない人ともう一度会えることは、うれしい面が多いと思いました。ぼくも亡くなった高知のひいおじいちゃんやひいおばあちゃんにもう一度会って、色々な話をしたいと思いました。
- 主人公の友達や知らない漫画家のボーダレス・ケアラーがおもしろかった。友達の事情や漫画家の事情にとっても感動した。
- ゆうれいとは少しちがった「ボーダー」のケアをするのは面白そうだと思います。セーラが死んでいないとわかった時はびっくりしました。
- リードを持つとボーダーが見えて、色々なボーダーをケアしていくところがおもしろいし、感動した。

『夜明けをつれてくる犬』

吉田桃子／著（講談社）

- うまく話せなくて友達ができない主人公が、花屋のお姉さんとの交流を通して、だんだんと成長していく姿に感動した。主人公のことを応援したくなった。
- 大切なものを失った時に思ったことが言えなくなってしまったのは、唯一の心の支えだった愛犬レオンの死を受け入れられずにいるからという美咲の心の内が書かれていて、おもしろかった。
- 私は犬を飼ったことがなかったけれど、自分にとって大切な物が亡くなってかなしいという気持ちは伝わった。
- 美咲がすこしずつ成長して行って、自分の意見を自分の言葉で言えるようになるまでの出会いに感動しました。

『キューティー・キューピー・キューピッド』

小松原宏子／作（静山社）

- タマ子にとどいたキューピー人形がキューピッドだなんて、すごいと思った。願いをかなえるキューちゃんがタマ子のためにサンタさんと夜なべしてくれたり、魔法をかけてくれたり、いろいろしてくれるなんていいなと思った。
- 最後に市の展覧会を見に行ったときに、書初めが入れ替わっていて、おもしろかった。
- ちょっとしたキューちゃんの行動が愛らしく、どんな人が読んででもクスッと笑えて、感動する物語だと思う。